

第8章 生体腎移植における腎提供の既往

1. 調査の背景

わが国において、年間に実施される腎臓移植のほぼ90%が生体腎移植である²²⁾。慢性的なドナー不足のため、高齢や高血圧や糖尿病を持つマージナルドナーからの腎移植も行われている。生体腎移植において、ドナーの安全性は非常に重要である。日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告では腎移植後8年間で透析導入に至ったものは1または2例と報告されているが、回答率が高くないという問題がある²²⁾。腎移植ドナーの安全性は腎代替療法の選択にも影響を与える。このため、2019年から慢性維持透析患者を対象に、患者自身が過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供した既往があるか否かの調査を開始した。

2019年調査は腎提供に関して初めての調査だったため、なんらかの誤解をして回答された患者が含まれた可能性がある。そのため2020年調査では腎提供に既往ありと回答があった全施設に、腎提供の有無、腎提供年月の回答に間違いはないか問い合わせを行った。今回の2021年調査では、前年調査で確認した施設以外の、新規に腎提供に既往ありと回答があった全施設に、腎提供の有無、腎提供年月の回答に間違いはないか問い合わせを行った。2021年調査で新規に腎提供の既往ありと記載のあった102施設141人のうち全施設から回答が得られ、既往なしが104人、既往ありが37人であった。

2. 腎提供の有無

2021年末に慢性維持透析を行っている336,182人のうち、236,393人（70.3%）において腎提供の有無に回答が得られた。この236,393人のうち115人（0.049%）が腎移植ドナーとして腎提供ありで、2020年末より8人増加していた（補足表60）。

3. 腎提供から透析導入までの期間

腎提供年月または腎提供年は115人のうち105人（91.3%）において回答が得られた。腎提供から透析導入までの期間の平均は20年3ヵ月（±9年10ヵ月、標準偏差）であった。ただし、105人中60人において腎提供月が不明であったため、この60人の腎提供が行われた暦月を便宜的にすべてその年の6月と仮定して計算した。腎提供から透析導入までが5年未満だったものが4人（3.8%）、5年以上10年未満だったものが12人（11.4%）であった（図55、補足表61）。2020年末は5年未満だったものが3人（3.1%）、5年以上10年未満だったものが16人（16.5%）であったため、2021年末も同様の傾向であると思われる。

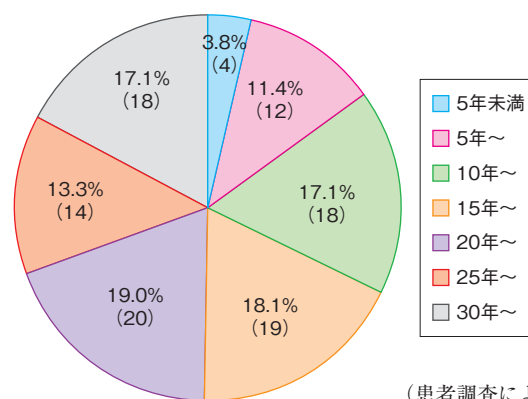


図 55 腎提供ありの患者 腎提供から透析導入までの期間, 2021

4. 性, 原疾患, 腎提供時年齢

腎移植ドナーとしての腎提供ありと回答があった115人のうち, 男性60人(52.2%), 女性55人(47.8%)であった(補足表60)。原疾患は, 慢性透析患者の主要な原疾患である, 糖尿病性腎症, 慢性糸球体腎炎, 腎硬化症と, それ以外の原疾患, 不明で分けたが, 慢性透析患者全体の割合とは異なり, 糖尿病性腎症23人(20.0%), 慢性糸球体腎炎28人(24.3%), 腎硬化症23人(20.0%)といずれも同じぐらいの割合であった(補足表61)。腎提供時の年齢は, 腎提供年のデータがある105名のうち20歳未満は0人(0%), 20歳以上40歳未満は18人(17.1%), 40歳以上60歳未満は58人(55.2%), 60歳以上は29人(27.6%)であった(補足表62)。